



アンジュールはフランス語で「ある日」という意味。一人ひとりの「ある日」を紡いでいきたいという願いを込めた情報紙です。



映画監督
横浜聡子さん

青森市出身。
2002年に映画美学校に入学し映画製作を学ぶ。卒業制作の短編『ちえみちゃんとこっくんぱっちょ』が2006年CO2オープンコンペ部門最優秀賞受賞。2006年に制作した長編『ジャーマン+雨』が自主制作映画としては異例の全国劇場公開となり、2007年度日本映画監督協会新人賞を受賞。その後も『ウルトラミラクルラブストーリー』、『俳優亀岡拓次』等の映画を監督。最新作は2021年6月18日青森先行公開の『いとみち』。

わたしの未来はわたしがつくる

デザイナー

北澤武志さん

青森市出身。
2006年、都内にセレクトショップ“CANDY”を立ち上げ、オープニングディレクター兼バイヤーを経て独立。2009年に自身のブランド「DRESSEDUNDRESSED (ドレドアンドレド)」を立ち上げ、2012年東京コレクションデビュー。2013年にはロンドンで開催されたコレクション「インターナショナル・ウールマーク・プライズ」でVOGUEItalia編集長の推薦によるスペシャルエントリーで世界の6ブランドの1つに選出された。米津玄師やOfficial髭男dismといった著名人が「DRESSEDUNDRESSED」のコレクションを着用しており、話題を呼んでいる。



新型コロナウイルス感染症の拡大は女性の雇用や生活に大きな影響を与えています。
内閣府男女共同参画局の資料によると、2020年4月の女性の就業者・雇用者数は前月から大幅に減少し、減少数は男性の約2倍。雇用形態別で見ると非正規雇用労働者の減少幅が大きくなっています。
元来、女性は男性に比べて非正規雇用者の割合が高いです。給料も手当も少なく、雇用の保障もほとんどない状態で働いている女性たちが、感染症拡大による解雇や雇い止めといった雇用情勢悪化のしわ寄せを受けました。ひとり親家庭においては、その影響がより深刻であり、貧困に直面している家庭もあります。

コロナ禍と女性

また、コロナ禍においては、人々の生活に不可欠である医療、介護、保育、スーパー等の現場で働く「エッセンシャルワーカー」が注目を浴びましたが、これらの現場の多くが非正規雇用の女性で支えられており、社会に必要な労働に十分な労働条件が保障されていない現状が浮き彫りとなりました。加えて全国のDV相談件数、女性の自殺者数が増加。健康、生活の維持・収入といった生活意識については、感染症拡大前に比べて女性の方が不安が増しているとの調査結果もあり、女性のメンタルヘルスへの影響も深刻です。こうした中、国では2020年9月に「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」を設置。新型コロナウイルス感染症が女性の雇用や生活等に与えている影響を分析し、女性の視点からの政策課題の把握を進めています。

2021年6月18日(金) 青森先行公開

『いとみち』について横浜監督に聞く!!

★ご自身が育った地でもある青森市での撮影はいかがでしたか?
とにかく青森は人が温かいという事に気づかされました。撮影行為というものは、そこに住んでいるかたの日常の営みを中断させてしまうという非情な側面もあるのですが、この映画の撮影のために、地元の皆さんがあらゆることに笑顔でお力を貸してくださったことが一番嬉しかったです。

★監督から見た、主人公・相馬いとの魅力は?
自分の事は意外とよくわからないものです。わからないから知りたい、と思う気持ちが人間が生きていく原動力なのだと思います。自分を知るために、自分固有のやり方で、世界へ一歩ずつ歩み出そうとする“いと”の勇気を観ていただきたいです。

★青森市民の皆さんへメッセージをお願いします!
この一年間、新型コロナウイルスの影響で今まで普通にできていたことができなくなり、何らかのストレスや変化を誰もが感じられてきたことと思います。皆さんにとって、映画を観る時間がそんな鬱憤を一瞬でも忘れる時間であつたら嬉しいです。6月の公開をどうか楽しみにしててください!



©2021『いとみち』製作委員会



横浜監督最新作! オール青森ロケ、津軽弁青春ムービー

いとみち

監督・脚本 横浜聡子
出演 駒井蓮、豊川悦司

津軽地方を舞台に津軽三味線が得意な少女の成長を描いた越谷オサムさんの小説「いとみち」が原作。
三味線が得意な主人公・相馬いとは、弘前の高校に通う16歳。津軽訛りと人見知りのせいで、本当の自分を見せられず友人も少ない"いと"は、思い切ってメイドカフェでアルバイトを始める。バイト先のオーナーや同僚、常連客たちとの関わりを通し、自分らしく"いと"が成長していく姿を描いている。

映画『いとみち』公式サイト
<http://itomichi.com/>



<発行>
青森市 市民部 人権男女共同参画課
〒030-8555 青森市新町1-3-7
☎017(734)2296 FAX017(734)5765
<編集スタッフ>
蝦名晶子 (NPO法人あおもり男女共同参画をすすめる会)
齋藤純子 (ライター)
※転載ご希望の場合はご連絡ください。

アンジュール VIEW

性的マイノリティの25%が「アウトティング」を経験

本人が公にしている性的指向や性自認を、本人の了解を得ずに、他者に話してしまうことを「アウトティング」といいます。2020年に実施された性的マイノリティの方々約1万人を対象にした調査で、約25%の方がアウトティングをされた経験を持つことが明らかになりました。軽い気持ちや面白半分アウトティングをしまつたり、相談されたことを他者について話してしまう場合もあります。しかし、アウトティングは、打ち明けてくれた本人を深く傷つける重大な人権侵害です。
何らかの理由で他者のセクシュアリティを知った場合は、アウトティングにならない言動を心がけましょう。

